

## 【今日の説教から】

過越の食事の日から 50 日目。ペンテコステ(五旬節)はユダヤ三大祭りの一つです。春の収穫感謝の日であり、出エジプトの 50 日後にシナイ山にてモーセに十戒が与えられた記念の祝いの日、ユダヤ人男性はこの三大祭りの日にエルサレムの神殿に向かい主を礼拝しました。世界各地に離散したユダヤ人が集まり、世界からの改宗者たちがエルサレムの神殿に集う、まさにその時に主の約束は果たされました。

イエス様はかつて弟子たちに息を吹きかけて「聖霊を受けよ」と言われました(ヨハネ 20:22)。そしてこうも言われました。「安かれ。父がわたしをおつかわしになったように、わたしもまたあなたがたをつかわす」「あなたがたがゆるす罪は、だれの罪でもゆるされ、あなたがたがゆるさずにおく罪は、そのまま残るであろう」

舞台は整いました。「突然、激しい風が吹いてきたような音が天から起ってきて、一同がすわっていた家いっぱいに響きわたった。また、舌のようなものが、炎のように分れて現れ、ひとりびとりの上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した」。そしてそのそれぞれの言語で語られた内容とは、神様の大きな、全能のお働きについてでした。

いよいよ世界伝道の幕が切って落とされました。もはやこの教えは、ユダヤ人だけのものではなく、弟子たちだけのものではなく、世界に伝えられる教えとなつたのです。

皆様おはようございます。

相変わらず寒暖差の多い気候ですが、お元気でお過ごしでしたか。

今日はペンテコステ(聖霊降臨日)です。

ルカ 24:49 見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る。だから、上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい」。

イエス様がこう語られた、「上から力を授けられる」出来事が、ついに起こりました。

使徒 1:8 ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

「上から力を授けられる」というこのペンテコステの聖霊の注ぎですが、それは何のために与えられたのかということを今日ご一緒に聖書から学びたいと願います。

それは「私の証人となる」、イエス・キリストの証人となるためです。

ルカ 24:45 そこでイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて

24:46 言われた、「こう、しるしてある。キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。

24:47 そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。

24:48 あなたがたは、これらの事の証人である。

そしてイエスキリストを証しするということは、それは、イエス・キリストが私たちすべての救い主であるということを私たちが証しし伝えることです。主は贖いをなされ、その名によって罪の赦しを得させる悔い改めが全世界に伝えられるのです。私たちはこのことをお伝えするのです。

ヨハネ 20:21 イエスはまた彼らに言わされた、「安かれ。父がわたしをおつかわしになったように、わたしもまたあなたがたをつかわす」。

20:22 そう言って、彼らに息を吹きかけて仰せになった、「聖靈を受けよ。

20:23 あなたがたがゆるす罪は、だれの罪でもゆるされ、あなたがたがゆるさずにおく罪は、そのまま残るであろう」。

それは罪の赦しを宣言する証です。イエス様は、世界のすべての人のために、贖いをなすために十字架にかかりました。私たちはこの真実を世界中の方々に伝えるために聖靈を頂いたのです。

ヨハネ 14:11 わたしが父により、父がわたしにおられることを信じなさい。もしそれが信じられないならば、わざそのものによって信じなさい。

14:12 よくよくあなたがたに言っておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。

14:13 わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。

14:14 何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。

14:15 もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。

14:16 わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。

14:17 それは真理の御靈である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、

それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。

14:18 わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに帰って来る。

14:25 これらのことは、あなたがたと一緒にいた時、すでに語ったことである。

14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖靈は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。

14:27 わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。

14:28 『わたしは去って行くが、またあなたがたのところに帰って来る』と、わたしが言ったのを、あなたがたは聞いている。もしわたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くのを喜んでくれるであろう。父がわたしそれより大きいかたであるからである。

聖靈は弱い私たちを助け、神様の御心を悟らせ、平安と力で満たし、私たちに命じておられる父なる神様の教えを行うことを可能にさせます。この助け手は、いつまでも私たちと共におられ、すべてのことを教え、イエス様が語られたことをことごとく思い起こさせます。そして、「またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう」とのイエス様のお言葉を実現させるのです。

それではペンテコステの日に弟子たちに起こったことを順に読んでまいりましょう。

2:1 五旬節の日がきて、みんなの者が一緒に集まっていると、

2:2 突然、激しい風が吹いてきたような音が天から起ってきて、一同がすわっていた家いっぱいに響きわたった。

2:3 また、舌のようなものが、炎のように分れて現れ、ひとりひとりの上にとどまった。

突然激しい風が吹いてきたような音が天から起きました。轟音でした。それは天からの風でした。

ヨハネ 3:5 イエスは答えられた、「よくよくあなたに言っておく。だれでも、水と靈とから生れなければ、神の国にはいることはできない。

3:6 肉から生れる者は肉であり、靈から生れる者は靈である。

3:7 あなたがたは新しく生れなければならないと、わたしが言ったからとて、不思議に思うには及ばない。

3:8 風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない。靈から生れる者もみな、それと同じである」。

靈の満たしを受ける。それは私たちがもはや生まれつきの性質のままに生きる者ではなくなるということです。私たちは靈に生きる者であり、「どこからきて、どこへ行くかは知らない。靈から生れる者もみな、それと同じ」とイエス様が語られたように、私たちの思いによってではなく、神様の御思いの中に導かれて生きるのです。

そして彼らは新たな例による「舌」を得たのです。それは新たな言語でもあります。

出エジプト記 3:10 さあ、わたしは、あなたをパロにつかわして、わたしの民、イスラエルの人々をエジプトから導き出させよう」。

3:11 モーセは神に言った、「わたしは、いったい何者でしょう。わたしがパロのところへ行って、イスラエルの人々をエジプトから導き出すのでしょうか」。

4:10 モーセは主に言った、「ああ主よ、わたしは以前にも、またあなたが、しもべに語られてから後も、言葉の人ではありません。わたしは口も重く、舌も重いのです」。

4:11 主は彼に言われた、「だれが人に口を授けたのか。話せず、聞えず、また、見え、見えなくする者はだれか。主なるわたしではないか」。

4:12 それゆえ行きなさい。わたしはあなたの口と共にあって、あなたの言うべきことを教えるであろう」。

神様には不可能なことは何一つありません。神様は口も重く、舌も重い、その人の口を開き、舌をほどいて、言うべきことを語らせてくださいます。

ダニエル 5:1 ベルシャザル王は、その大臣一千のために、盛んな酒宴を設け、その一千人の前で酒を飲んでいた。

5:2 酒が進んだとき、ベルシャザルは、その父ネブカデネザルがエルサレムの神殿から取ってきた金銀の器を持ってこいと命じた。王とその大臣たち、および王の妻とそばめらが、これをもって酒を飲むためであった。

5:3 そこで人々はそのエルサレムの神の宮すなわち神殿から取ってきた金銀の器を持ってきたので、王とその大臣たち、および王の妻とそばめらは、これをもって飲んだ。

5:4 すなわち彼らは酒を飲んで、金、銀、青銅、鉄、木、石などの神々をほめたたえた。

5:5 すると突然人の手の指があらわれて、燭台と相対する王の宮殿の塗り壁に物を書いた。王はその物を書いた手の先を見た。

5:22 ベルシャザルよ、あなたは彼の子であって、この事をことごとく知つていながら、なお心を低くせず、

5:23 かえつて天の主にむかつて、みずから高ぶり、その宮の器物をあなたの前に持つてこさせ、あなたとあなたの大臣たちと、あなたの妻とそばめたちは、それをもつて酒を飲み、そしてあなたは見ることも、聞くことも、物を知ることもできない金、銀、青銅、鉄、木、石の神々をほめたたえたが、あなたの命をその手ににぎり、あなたのすべての道をつかさどられる神をあがめようとはしなかつた。

5:24 それゆえ、彼の前からこの手が出てきて、この文字が書きしるされたのです。

5:25 そのしるされた文字はこうです。メネ、メネ、テケル、ウパルシン。

5:26 その事の解き明かしはこうです、メネは神があなたの治世を数えて、これをその終りに至らせたことをいうのです。

5:27 テケルは、あなたがはかりで量られて、その量の足りないことがあらわれたことをいうのです。

5:28 ペレスは、あなたの国が分かたれて、メデアとペルシャの人々に与えられることをいうのです」。

神様はご自在に世の中に介入され、手の指で人に警告の言葉を表され、舌を表して聖靈を注ぎ、人にわが願うことを語れと仰せになられます。

聖靈は舌であり、聖靈は私たちに語らせる神様の力です。聖靈は言葉であり、私たちに語るべき言葉を与えます。

マルコ 13:5 そこで、イエスは話しへはじめられた、「人に惑わされないように気をつけなさい。

13:6 多くの者がわたしの名を名のつて現れ、自分がそれだと言つて、多くの人を惑わすであろう。

13:7 また、戦争と戦争のうわさとを聞くときにも、あわてるな。それは起らねばならないが、まだ終りではない。

13:8 民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに地震があり、またききんが起るであろう。これらは産みの苦しみの初めである。

13:9 あなたがたは自分で気をつけていなさい。あなたがたは、わたしのために、衆議所に引きわたされ、会堂で打たれ、長官たちや王たちの前に立たされ、彼らに対してあかしをさせられるであろう。

13:10 こうして、福音はまずすべての民に宣べ伝えられねばならない。

13:11 そして、人々があなたがたを連れて行って引きわたすとき、何を言おうかと、前もって心配するな。その場合、自分に示されることを語るがよい。語る者はあなたがた自身で

はなくて、聖霊である。

13:12 また兄弟は兄弟を、父は子を殺すために渡し、子は両親に逆らって立ち、彼らを殺させるであろう。

13:13 また、あなたがたはわたしの名のゆえに、すべての人に憎まれるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。

2:4 すると、一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した。

2:5 さて、エルサレムには、天下のあらゆる国々から、信仰深いユダヤ人たちがきて住んでいたが、

2:6 この物音に大ぜいの人が集まってきて、彼らの生れ故郷の国語で、使徒たちが話しているのを、だれもかれも聞いてあっけに取られた。

2:7 そして驚き怪しんで言った、「見よ、いま話しているこの人たちは、皆ガリラヤ人ではないか。

2:8 それなのに、わたしたちがそれぞれ、生れ故郷の国語を彼らから聞かされるとは、いったい、どうしたことか。

2:9 わたしたちの中には、パルテヤ人、メジヤ人、エラム人もおれば、メソポタミヤ、ユダヤ、カパドキヤ、ポンとアジヤ、

2:10 フルギヤとパンフリヤ、エジプトとクレネに近いリビヤ地方などに住む者もいるし、またローマ人で旅にきている者、

2:11 ユダヤ人と改宗者、クレテ人とアラビヤ人もいるのだが、あの人々がわたしたちの国語で、神の大きな働きを述べるのを聞くとは、どうしたことか」。

2:12 みんなの者は驚き惑って、互に言い合った、「これは、いったい、どういうわけなのだろう」。

神様はその大能の力と息吹とによって私たちに息を吹きかけられ、聖霊を与え、舌を与え、言葉をあたえ、聖霊は私たちに罪の赦しを得させるイエスキリストの証しを語らせてくださいます。これだけの大きな出来事が私たちの世界の歴史に刻み込まれています。そして教会の歴史に刻み込まれています。こうして華々しく世界宣教の幕が切って落とされ、私たちにも聖霊の舌によって語ることが出来る現実が到来しています。

舌が与えられて語れるように用意が整った。それがペンテコステです。

ヨハネ 3:8 風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない。霊から生れる者もみな、それと同じである

このようにして、思いのままに吹く聖霊により導かれ、右に左に、後ろに前に、東西南北に導かれ、そしてそこで聖霊によって語る。神様の全能の御業について語り、キリスト・イエスにある贖いによる罪の赦しを語る。この故に私たちに聖霊が与えられたのです。

2:13 しかし、ほかの人たちはあざ笑って、「あの人たちは新しい酒で酔っているのだ」と言った。

こんな新しい酒があるでしょうか。飲んでその時には楽しみをもたらしてもまた渴く、酒にも食べ物にも与えられない、無くならない平安と喜びがここにはあります。

ローマ 14:17 神の国は飲食ではなく、義と、平和と、聖霊における喜びとである。

ヨハネ 7:37 祭の終りの大事な日に、イエスは立って、叫んで言われた、「だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい。

7:38 わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その腹から生ける水が川となって流れ出るであろう」。

7:39 これは、イエスを信じる人々が受けようとしている御霊をさして言われたのである。すなわち、イエスはまだ栄光を受けておられなかつたので、御霊がまだ下つていなかつたのである。

ヨハネ 4:13 イエスは女に答えて言われた、「この水を飲む者はだれでも、またかわくであろう。

4:14 しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」。

私たちはこの喜びを、永遠にしばむことのない喜びを、喜んでお伝えしようではありませんか。

ルカ 21:33 天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は決して滅びることがない。

イザヤ 40:6 声が聞える、「呼ばわれ」。わたしは言った、「なんと呼ばわりましょうか」。「人はみな草だ。その麗しさは、すべて野の花のようだ。

40:7 主の息がその上に吹けば、草は枯れ、花はしぶむ。たしかに人は草だ。

40:8 草は枯れ、花はしほむ。しかし、われわれの神の言葉は／とこしえに変ることはない」。

40:9 よきおとずれをシオンに伝える者よ、高い山にのぼれ。よきおとずれをエルサレムに伝える者よ、強く声をあげよ、声をあげて恐れるな。ユダのもろもろの町に言え、「あなたがたの神を見よ」と。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。「高いところからの力に覆われる」との主のお約束の通りに聖霊が与えられ、弟子たちは習いもしなかったもろもろの外国の言葉で神様の偉大な御業を大胆に語りました。この教えはついにユダヤ人だけのものではなくなりました。ましてや弟子たちだけのものではなく、教会だけのものでもありません。私たちの神様がどれだけ偉大な御業をなさるのかは、世界全ての方々に語られなければなりません。どうか今週、私たちにも証しをさせてください。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン